

第2回 純正会地域包括ケア推進委員会 開催しました！



平成30年1月19日に東洋病院の会議室にて、第2回純正会地域包括ケア推進委員会が開催されました。今回から新たに、名古屋市立緑市民病院、小牧第一病院の医療相談員の方が新たに参加される事になり体制が強化されました。また、今回は多忙の業務の中、名古屋西病院の後藤看護部長にも参加を頂きました。今回は、地域包括ケアシステムの勉強会と、地域で支える必要がある入院患者の退院支援についての事例検討を行いました。

- 前列左側1番目
各務 久与(名古屋市立緑市民病院)
- 前列左側2番目
後藤 加代子(名古屋西病院)
- 後列右から2番目
講神 丈也(小牧第一病院)

地域包括ケアシステム についての学習会

これから地域包括ケアを推進する委員会として、地域包括ケアシステムの概要について学びを深めていく必要を感じ、地域包括ケアシステム学習会初級編を開催しました。

参加者より、「地域包括ケアシステムという言葉はよく聞くが、中身までは理解できていなかったため勉強になった。」「病院としても地域と連携するのは大事な事だと分かっていしたが、あまりなじみがなかった。」「これからは活かしていきたい。」「講師が、地域包括ケアシステムを、システムキッチンと表現していた事が分かりやすく、頭にイメージしやすかった。」「在宅側としては、どの研修に行っても聞く言葉なので意識していたが、今回振り返る機会になった。」等の感想がでていました。



2つのグループにわけて事例検討をしている様子

事例検討

今回は、医療機関側と在宅側の連携をテーマに事例検討を行いました。事例は、「認知症の方が医療機関に入院しており、退院後どういう支援があれば地域で生活できるか」という内容で行いました。

多職種との視点の違いを知るために、事例のどこに着目したかが分かるように、事前にマーカーを引いて行いました。その結果、医療機関と在宅側との着目の違いがわかり「本人宅の築年数にも着目するんですね。」「という驚きや、「看護師さんは、やはり疾患が気になりますよね。」等、感心しながら学ぶ事ができました。

事例の検討中は、在宅側から医療機関側へ「年金額をみると生活保護につなげる必要があるけど、入院中に相談員さんが対応できるの?」という質問に対して、「相談員が生活保護の職員に連絡を取り話を進める事もあります。」との回答をもらったり、「今後どういう疾患につながっていきますか?」の質問に対して丁寧に疾患の進行について教えてもらう事ができました。

医療機関側からは、「このケースの場合介護保険を申請するとのくらの介護度ができますか?」という質問に、事例の身体状況や、認知機能から予想できる介護度を伝えたり、「金銭管理を本人ではなく誰か別の人が行った方がいいと思うけど、そういうサービスはないか?」との質問に対して「NPOや、権利擁護センターで対応できます。」と制度について伝えました。

検討後、「多職種で事例検討をする機会が少ないので良い機会になった」、「人によって色々な視点がある事がわかった。その視点を参考にしたい」、「事例を通じて、他の職員の考え方や、支援方法を知る事ができたので良かった」という感想がでました。

今後も事例検討は定期的に行い、普段悩んでいる事を皆で共有し解決につなげられるようにしていきます。

次回の予定

日付	行事	場所
2月16日 13時半	介護保険制度について勉強会	東洋病院